

大津川水系の治水対策

章 目次

- 1 大津川水系の状況は？
- 2 大津川水系での被害実績は？
- 3 大津川水系での治水手法とその選択理由は？
- 4 これまでの進捗状況は？
- 5 各河川の氾濫区域内の資産額及び総事業費は？
- 6 榎尾川の河川改修の進め方は？
- 7 榎尾川の進捗は？
- 8 他流域との比較は？
- 9 何故、榎尾川の改修は遅れているのか？

まとめ

-1 大津川水系の状況は？

大津川水系は、流域面積102.2km²の府域最大の二級水系であり、水系全体の流域内人口は約15万人、大津川・榎尾川に限ると約8万人（H12時点）。和泉市や泉大津市は大阪府域でも人口増加率の高い地域。

大津川水系の河川

河川名	管理延長 (km)	流域面積 (km ²)
大津川	2.6	102.2
牛滝川	17.5	(45.4)
松尾川	12.3	(18.0)
榎尾川	18.3	(56.7)
東榎尾川	2.6	(10.6)
父鬼川	3.2	(25.2)
合計	56.6	-



-2 大津川水系での被害実績は？

1 / 2

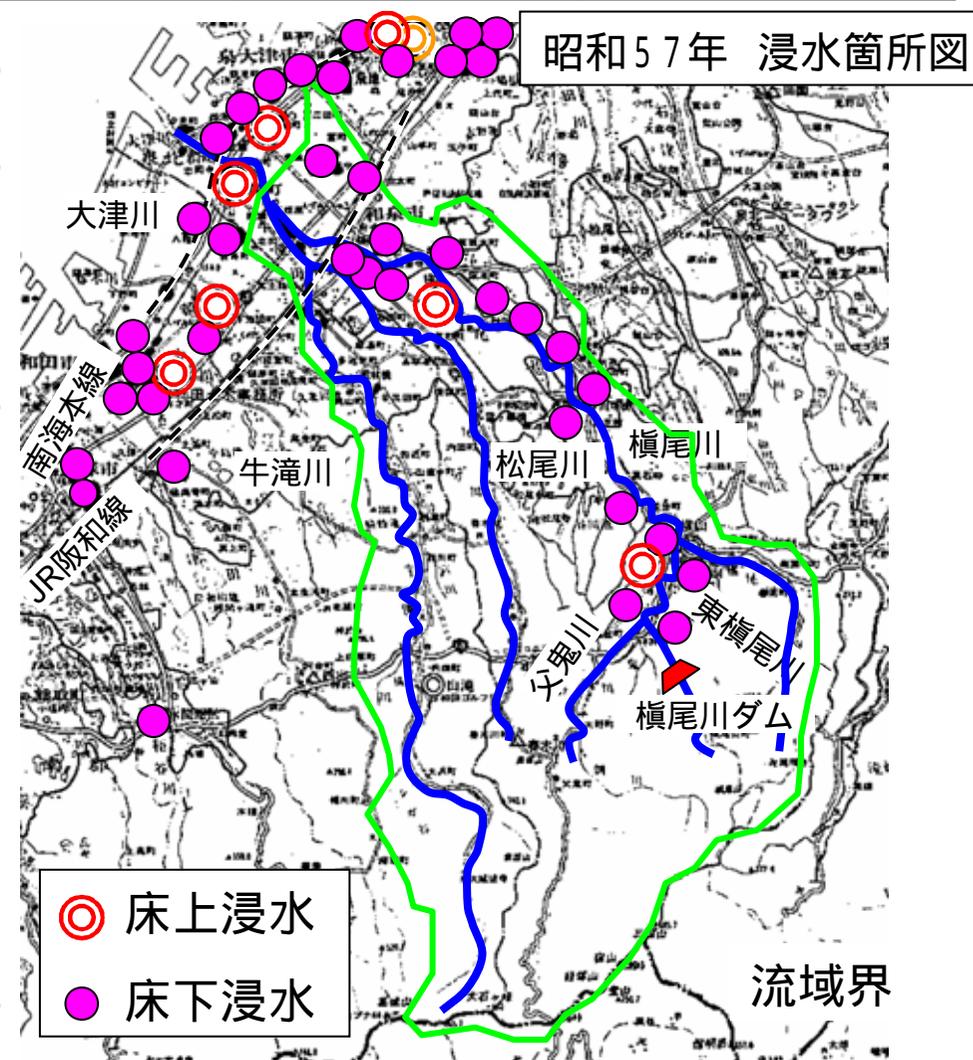
昭和57年8月 台風10号による災害

【降雨の状況】

- ・最大時間雨量：37mm(横山)
- ・最大日雨量：194mm(横山)

【被害の状況】

- ・被害額：約16億円
- ・浸水家屋：5,694戸
(床上)168戸、(床下)5,526戸
和泉市、泉大津市、忠岡町にて発生
- ・河川被害：破堤3箇所(槇尾川)
護岸崩壊89箇所
(槇尾川、東槇尾川、松尾川、牛滝川)



出典：台風10号及び豪雨災害概要(大阪府土木部河川課S58.1)

：槇尾川被害状況について(和泉市S57調査資料)



-2 大津川水系での被害実績は？

2 / 2

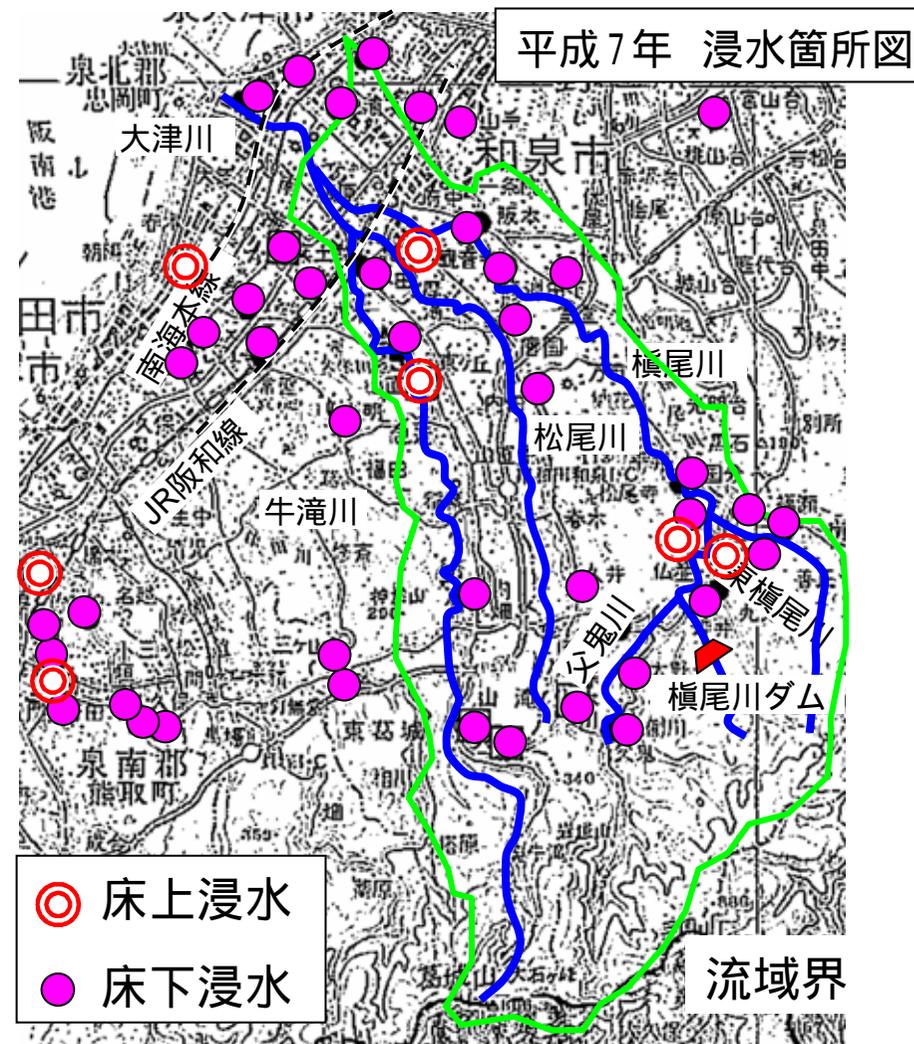
平成7年7月 梅雨前線豪雨による災害

【降雨の状況】

- ・ 最大時間雨量：46mm(横山)
- ・ 最大日雨量：192mm(横山)

【被害の状況】

- ・ 被害額：約11億円
- ・ 浸水家屋：113戸
(床上)10戸、(床下)103戸
和泉市、岸和田市にて発生
- ・ 河川被害：護岸崩壊49箇所
(槇尾川、東槇尾川、父鬼川、
松尾川、牛滝川)



出典：平成七年発生災害の記録（大阪府土木部河川課H8.3）
：槇尾川被害状況について（和泉市H7調査資料）

-3 大津川水系での治水手法とその選択理由は？

榎尾川の治水手法の選択については、以下のとおり。

現計画

治水手法の比較項目		河川改修	河川改修 + 遊水地	河川改修 + ダム
80ミリ目標対策	コスト	約861億円	約905億円	約845億円
	移転戸数	255戸	255戸 (河川255戸, 遊水地0戸)	212戸 (河川207戸, ダム5戸)
	用地買収	約20ha	約25ha (河川5ha, 遊水地20ha)	約34ha (河川17ha, ダム17ha)
当面の目標	コスト	約202億円	約202億円	約212億円
	効果発現時期	平成37年頃	平成37年頃	平成27年頃

-4 これまでの進捗状況は？

各河川の進捗状況、昭和57～平成20年度の投資額等については、以下のとおり。

河川名	50ミリア対策進捗率 改修済/要改修延長	S57～H20 投資額	50ミリア対策 残額	80ミリア対策 残額	S57以降 全体額
大津川	100% 2.6/2.6km	139億円	0億円	0億円	139億円
牛滝川	54% 6.8/12.5km	160億円	163億円	50億円	373億円
松尾川	90% 8.4/9.3km	200億円	0億円	27億円	227億円
榎尾川	70% 9.9/14.2km	78億円	27億円	633億円	738億円
榎尾川 ダム	用地買収:92% 付替道路:36%	47億円	81億円	0億円	128億円
合 計		624億円	271億円	710億円	1,605億円

-5 各河川の氾濫区域内の資産額及び総事業費は？

大津川水系の各河川の想定資産額は、以下のとおり。

河川名	氾濫区域内 資産額	一般資産				農業生産額	総事業費
		事業所資産額	従業員数	家屋資産額	家屋数		
榎尾川	1,691億円	389億円	5,760人	1,300億円	4,406戸	2億円	866億円
牛滝川	1,499億円	280億円	3,872人	1,218億円	3,981戸	1億円	373億円
松尾川	370億円	56億円	771人	314億円	1,129戸	0億円	227億円
上流からの氾濫が 下流域へ及ぶ区域	6,798億円	1,487億円	19,721人	5,308億円	18,536戸	3億円	-
合 計	10,358億円	2,212億円	30,124人	8,140億円	28,052戸	6億円	1,466億円

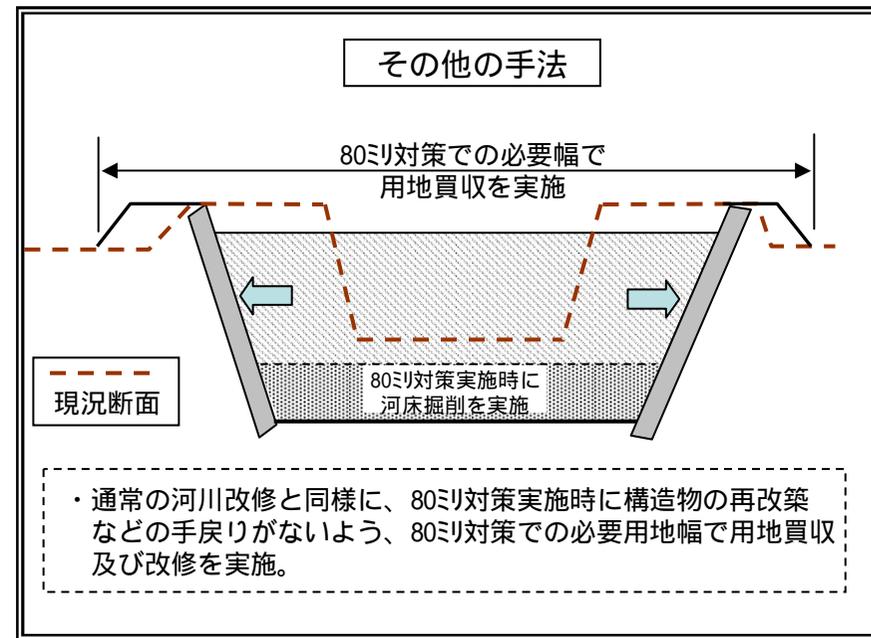
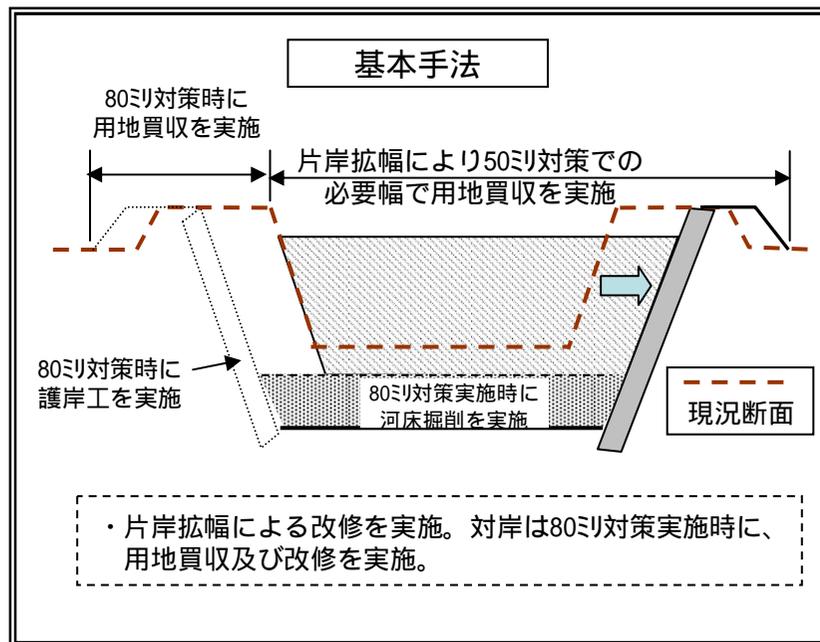
【前提条件】50ミリ対策の河川改修状況で80ミリの降雨が発生した場合の想定氾濫区域内の資産額を河川現況調査

(3年毎に国土交通省により実施)に基づき算出。(平成11年度末時点)

平成11年度末の改修率 大津川:100%、牛滝川:50%、松尾川:75%、榎尾:45%。

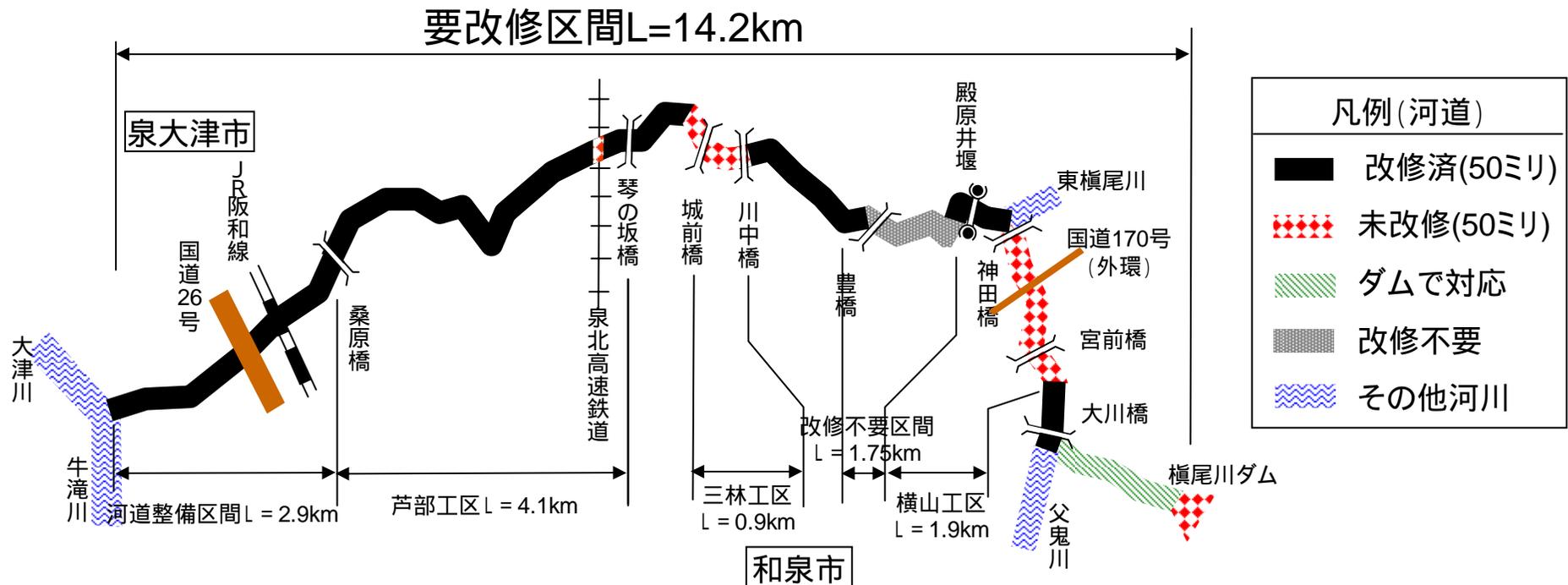
-6 榎尾川の河川改修の進め方は？

中下流部は河川改修、上流部はダム建設により、50ミリ対策を実施。
中下流部の河川改修の進め方については、早期に治水安全度の向上を図るため、現況の流下能力がないものの片岸の拡幅により50ミリ対策が可能な区間は、片岸拡幅を基本手法として事業を推進。



-7 榎尾川の進捗は？

要改修区間14.2km（大津川合流点からダムサイトまで）のうち、H20年度末時点で9.9kmが改修済み。【進捗率：70%】



-8 他流域との比較は？

榎尾川と他の流域（西除川、寝屋川流域）との比較は、以下のとおり。

河川名	流域面積	流域内人口	50ミリ対策 進捗率	80ミリ対策 進捗率
大津川・榎尾川	56.7km ²	8万人	74%	18%
西除川	34.2km ²	26万人	86%	86%
寝屋川流域	267.6km ²	280万人	98% (護岸改修延長比率)	64% (流域対策を含めた進捗率)

まとめ

大津川水系は、槇尾川、松尾川、牛滝川等の支川とそれらが合流する大津川で構成。

大津川水系の治水対策は、昭和57年災害を契機に本格的な治水事業に着手。大津川水系の河川については、河川改修を基本とした治水手法を選択。槇尾川については、河川改修とダムによる治水手法を選択。

現在の各河川の進捗状況は、大津川100%、松尾川90%、槇尾川70%、牛滝川54%の進捗。

槇尾川の河川改修の進め方については、現況の流下能力がないものの片岸の拡幅により50m対策が可能な区間は、片岸拡幅を基本手法として事業を推進。

槇尾川、牛滝川の河川改修の進捗については、和泉中央丘陵開発の流出増に対応するため、住宅都市整備公団（現UR）の費用負担を得て優先的に河川改修を推進した、大津川、牛滝川（松尾川合流点まで）、松尾川より改修が遅れている。

現在、槇尾川の進捗状況は、昭和57年の豪雨時に大きな災害を被った、西除川や寝屋川流域と比べて、遅れている状況。